

政策特集

年4回
編集



テーマに対するご意見を
アイデア通信(政 ページ)で
お寄せください。

中山 卓士 選手
Photo by STUDIO NOUTIS



もっと元気に



宇都宮



田臥 真太 選手

スポーツで



宇都宮の プロスポーツ



プロスポーツは まちを元気にします

今、なぜ、 プロスポーツなのか

今、全国で、そのまちの魅力と個性を磨き、「都市の価値」を高めることが課題となっています。

プロスポーツはその多面的な効用から、こうした課題に取り組む自治体のパートナーとして、また、都市の価値を確立する「都市ブランド」の一つとして、その活動が大いに期待されています。

プロスポーツの多面的な効用
誇り プロスポーツチームが自分たちのまちの代表として戦うことにより、郷土愛はぐくまれ、人々に市民としての「自覚」と「誇り」を与えてくれます。

あこがれ プロスポーツチームや選手は「あこがれ」の存在として、子どもたちに「夢」や「希望」を持つことの大切さを教え、「人間力」を示してくれます。

交流 試合会場は、地域に住む人々の交流の場となり、新たなコミュニティの形成を促します。また、対戦チームの応援のために全国から訪れるファンとの新たな交流は、効果的にまちをアピールするまたとない機会となります。

経済 プロスポーツを中心とした

「ヒト」・「モノ」・「情報」の新たな循環は、地域に大きな経済効果をもたらします。

「ご存じですか 宇都宮のプロスポーツ

現在、宇都宮市を拠点として、3つのプロスポーツチームが活動しています。サッカーの「栃木SC」、バスケットボールの「リンク栃木ブレックス」、自転車ロードレースの「宇都宮ブリッツェン」。それぞれ、J2（Jリーグディビジョン2）、JBL（日本バスケットボールリーグ）、Jサイクルツアーなどのロードレースに参戦中です。

プロとして 魅せる 戦う

「百聞は一見にしかず」。まずは試合会場に足を運んでみませんか。



そこには私たちのまち「宇都宮」から日本一を目指して戦う、選手・スタッフ・ファン・サポーターなど多くの人たちのドラマがあふれています。

「私たちのまち」の「私たちのプロスポーツ」を、市民みんなで盛り上げましょう。

地域への貢献 はぐくむ 触れ合う

宇都宮市にプロスポーツチームが3チーム誕生したことにより、私たちがプロスポーツを観戦する機会、これまでと比べて格段に増えました。しかし、より大きな変化は、プロスポーツが試合会場でのみ「観る」存在ではなく、私たちの生活の傍らで、身近に「触れる」ことができる存在となったことではないのでしょうか。

現在、各チームは地域社会の一員として、積極的に地域貢献活動に取り組んでいます。

子どもたちの健全な育成のための学校訪問事業やスポーツ教室の開催、また、高齢者を対象とした介護予防事業の実施や地域でのイベント参加など、チームは試合以外のときでも私たちの周りでフル稼働しています。

試合の開催などについて詳しくは、各チームのホームページなどで確認できます。

栃木SC (600)5555、[HPhttp://www.tochigisc.jp/](http://www.tochigisc.jp/)

リンク栃木ブレックス (637)8132、[HPhttp://www.linktochigibrex.com/](http://www.linktochigibrex.com/)

宇都宮ブリッツェン (643)6626、[HPhttp://www.blitzen.co.jp/](http://www.blitzen.co.jp/)



栃木SC



リンク栃木ブルックス



宇都宮ブリッツェン

プロとしての戦い



試合の見所

Jリーグクラブがこのまちにある喜びを、スタジアムで感じて欲しいと思います。ホームスタジアムの県グリーンスタジアムは、観客席とフィールドまでの距離が非常に近く、サッカーの迫力・魅力を肌で感じていただくことが可能です。応援するサポーターの雰囲気もサッカー場ならではの特別なもの。地元を誇りに感じ、皆さんが一体となる瞬間がホームスタジアムにはあります。(広報担当 吉見康之)



試合の見所

ブルックスホームゲームの醍醐味の一つは、選手との「近さ」。どの席からでも選手の表情が分かります。平均身長190cmを超える大男たちが走り、跳び、シュートする迫力が堪能できます。試合時間残り数秒、大逆転の望みを込めて放たれたシュートがゴールに吸い込まれると、会場は地鳴りのような絶叫に包まれます。(広報・プロモーション担当 下出恒平)



試合の見所

「ジャパンカップ」は、唯一のホームレースであり、最大の見せ場。世界的にもハイグレードなこのレースで、2012年に優勝を目指すことは、宇都宮をホームタウンとするブリッツェンにとって使命であると感じています。1年目の今年は、まずは櫻を打ち込まなければなりません。それを足掛かりにできるようなレース運び。地に足を着けつつも、エネルギーをため込める戦い方を身に付けたいと思います。(監督 柿沼章)

政 3

地域貢献活動



子どもたちに夢を持つことの大切さを伝える「ゆめプロジェクト」



スポーツでやる気を高める「キッズモチベーションプログラム」



自転車安全教室「ウィラースクール」で安全に乗るための技術を伝授



介護予防事業などへの参加を通し、幅広い世代の市民と交流



プロによる充実した指導が受けられるバスケットボールやダンスのスクール事業



サイクルイベントなどを通し、自転車を生かしたまちづくりに貢献

栃木SC 10月のホームゲーム(J2リーグ戦) 期日・対戦相手 18日(日) ヴァンフォーレ甲府 24日(土) 徳島ヴォルティス。 時間 午後1時キックオフ。 会場 県グリーンスタジアム(清原工業団地)
写真提供: 栃木SC、リンク栃木ブルックス、宇都宮ブリッツェン



企業

スポンサーとして広告掲示
試合会場の設営やグッズ作成
など



会場に掲示される
スポンサーバナー



チームを支える商品の提供

プロスポーツチームの誕生で、宇都宮にもスポーツビジネスをめぐる新たな経済取引が生まれています。地元を中心に、多くの企業がスポンサーとして、ユニホームや試合会場などに広告を掲示することで、チームの運営を支えています。また、チームの活動に伴う、試合会場の設営、印刷物やグッズの作成など、チームと企業の共同の輪も新たに生まれています。

スポーツの輪



基本方針
或密着



メディア



生放送で放映される
チーム応援番組

試合結果など、チームの動向の報道

新聞やテレビ、ラジオ、タウン誌などの地元メディアは、プロスポーツチームの動向を詳細に報道しています。こうした、地元メディアの記事や番組を通して、試合結果をはじめとするプロスポーツの情報を入手することができます。



市サッカー場 = 栃木SC宇都宮フィールド

チームに対する市民の愛着と連帯感を醸成することや、本市をアピールし、ブランド力を向上させることを目的に、施設愛称によるプロスポーツ応援事業を実施



市体育館 = ブレックスアリーナ宇都宮



政 4

「家族が働く会社がスポンサーをしている」、「自分の学校に選手たちが来てくれた」、「地元の商店街にチームのフラッグが掲げられている」。このように、プロスポーツは私たちの生活のいろいろな場面にかかわっています。プロスポーツと一緒に、宇都宮を元気にしていくためには、こうした多様なかわりの輪を大きくしていくことが必要です。プロスポーツの持つ魅力をまちづくりに生かすことができるように、これからも積極的な連携が求められます。

リンク栃木ブレックス 10月のホームゲーム (JBL) 日時・会場・対戦相手 10日(土) 午後6時~、11日(日)午後3時~ ブレックスアリーナ宇都宮 (市体育館・元今泉5丁目) 東芝プレイブサンダース 24日(土)午後6時~、25日(日)午後3時~ 清原体育館(清原工業団地) レラカムイ北海道。

取り組み



市民



試合会場だからこそ得られる選手・サポーターとの一体感

試合観戦 チームを支えるボランティア活動

チームを応援し、プロの技を楽しむために、多くの市民が試合会場に足を運んでいます。

また、ホームゲームの際の運営補助をはじめとして、多くの市民がボランティアスタッフとして各チームの運営を支えています。プロスポーツチームの存在は、市民の余暇活動を充実させるとともに、ボランティア活動などを通じた社会参加や自己実現の機会を提供してくれます。



チームの運営を助ける市民ボランティア



商店街



歩く人の目に入る応援フラッグ

大勢の人が集まるショッピングセンターで行われたイベント

応援フラッグの掲示 イベントの開催

商店街やショッピングセンターなども、応援フラッグの掲示や各種イベントの開催などを通じて、プロスポーツチームを応援しています。フラッグの掲示などで、まちのにぎわいが演出されるとともに、買い物客や通行者は地域をあげてプロスポーツを応援する雰囲気を感じることができます。



行政

広報活動 競技場などの確保 地域貢献活動の バックアップ

行政もさまざまな支援や連携を通して、プロスポーツチームと密接な関わりを持っています。

宇都宮市は、皆さんのスポーツへの興味・関心を高めるとともに、地域と一体になったチームづくりを通し、地域の活力と都市の魅力を創造するため、ファン層拡大などのための広報活動、練習場や試合会場の確保、地域貢献活動の場・機会の提供などに取り組むことにより、プロスポーツチームと連携を図っています。

プロスポーツチームは、地域貢献活動に取り組むとともに、各種行政施策のPRや公的イベントに積極的に参加することにより、行政との連携を深めています。



ユニホームなどに、市が取り組む「もったいない運動」のロゴマークを掲示し、市の施策を全国にPR

プロスポー

チーム基
地域密



市民みんなが元気になる活動を

手塚 貴子さん

私が栃木SCにかかわるようになって2年半が過ぎました。そして、栃木SCの地域貢献事業の一つでもある「ゆめプロジェクト」で、2年ほど前から県内の小・中学校へ訪問活動を行っています。

この活動では、子どもたちに仲間を尊重することやフェアプレーの精神を理解してもらい、夢を持つことの大切さを伝えるために、トップ選手とともに体育の授業などを行っています。

この活動を通して感じることは、ボール1つあれば初めて会ったプロ選手でも子どもでも笑顔で夢中になれること。たった1回の授業でも、



私たちも子どもたちも何か熱いものを感じられること。小・中学生に限らず、幅広い年齢層の皆さんと交流することができたら、もつとお互いに勇気と希望を与えられると感じて



地域密着活動で知名度アップ

池田 麻乃さん

私は宇都宮に住み始めて3年目になります。身近で「バスケット」「サッカー」「自転車」など、さまざまな競技のプロのプレーを観戦することができるとすこい地域だなと感じています。

ブルックスは、立ち上げから現在までの約2年半で、300回はるかに超える数の地域密着活動を行ってきました。1人でも多くの人に「ブルックス」というプロバスケットボールチームがあるということを知ってもらうため、スタッフ総出でチラシ配りすることなどもあります。今では多くの人たちが試合に来てく

政6

います。
私たちの仕事は皆さんに夢と感動を与えることです。チームはJ2入りを果たし、まだ1年目。何事も手探り状態ですが、老若男女を問わず、スポーツを「する」「身体を動かす」「観る」(試合を観戦する)、「触れる」(イベントで交流する)ことを通じて、皆さんが元気になることを考えていきたいと思っています。



ださるようになりましたが、自分で販売をするチケットの重みは今

プロフィール

手塚 貴子さん

- ・栃木SCアカデミーサブリーダー/レディースチーム「栃木SCブランカ」監督
- ・宇都宮市出身。元女子サッカー日本代表として活躍。地域貢献や普及活動に尽力。

池田 麻乃さん

- ・リンク栃木ブルックス総務/CS/ボランティア運営担当
- ・会社勤務を経て現職。チーム立ち上げ時からスタッフとして多分野の業務を担当。

清水 良行さん

- ・宇都宮ブリッツェン選手
- ・昨シーズンまで海外を主体に活躍。今期「チームのエース」としてブリッツェン入り。

宇都宮市第3のプロスポーツチーム「宇都宮ブリツエン」が今年1月に産声を上げました。宇都宮ブリツエンは、国内ではほかに類を見ない地域密着型チームです。地域密着型チームは企業チームとは違い、ただレースで成績を出せば良いというものではありません。勝つ事はもちろん大切ですが、レースで勝利して周りを引き付け、1人でも多くのファンを増やしながラスポンスーを獲得しなければなりません。逆に言えば、レースで勝利しても誰にも応援されず盛り上がりなかつたら意味がないんです。ただの自己満足です。



プロスポーツとはファンがいて初めて成り立つと思っています。人が集まらない所にはスポンサーも付かないです。活動内容もレース活動だけではなく自転車普及のための自転車教室やサイクルイベントに加え、テレビ・ラジオ出演などのPR活動も積極的に行っています。まずはロードレースを皆さんに知ってもらうことが大切だと思います。ロードレースを知ってもらい、そこからレース会場に足を運んでもら



ファンで成り立つ地域密着型チーム

清水 良行さん

も変わっていません。宇都宮市に「リンク栃木ブレックス」というチームがあるということを知っていただけて、今週末、ブレックスの試合があるから、仕事や学校生活を頑張ろう」と感じただけで、頑張っています。今シーズンは、10月から公式戦が始まります。皆さん、ぜひ、試合会場にいらしてください。そして、ブレックスを体感してください。

と感動していただけたらいいですね。活動内容もレース活動だけではなく自転車普及のための自転車教室やサイクルイベントに加え、テレビ・ラジオ出演などのPR活動も積極的に行っています。まずはロードレースを皆さんに知ってもらうことが大切だと思います。ロードレースを知ってもらい、そこからレース会場に足を運んでもら

政7

アイデア通信

宇都宮のプロスポーツについて私はこう考えます

宇都宮のプロスポーツを盛り上げるために必要なことは何だと思いますか？

て初めて成績を出す意味が生まれません。この思いを根本に、宇都宮で始まった地域密着型チームを今後全国に少しずつ増やして行くのが目標であり、夢です。地域密着型チーム第一期生の僕たちが失敗するわけにはいきません。コッコツと地道に、焦らず確実に前進していきたいです。

あなたの意見をお寄せください

市民の皆さんから、「宇都宮のプロスポーツ」についての意見・提案をお受けします。寄せられた意見・提案はプロスポーツを活用したまちづくりなど、施策の参考とします。なお、一部を後日、広報紙で紹介いたします。質問などへの回答は、直接本人あてに返信しませんので、ご了承ください。

左のはがき（切手不要）を切り取り、10月15日（木）までにポストに投函してください。ほかのはがきや切手、ファクス、Eメールでも受け付けます。

送付先

〒320-8540 市役所総合政策部広報広聴課
(632)2025、(639)0627

Eメール：u2030@city.utsunomiya.tochigi.jp

政策特集「宇都宮のプロスポーツ」についての問い合わせ先
総合政策部地域政策室

(632)2119、(632)7072

Eメール：u2010@city.utsunomiya.tochigi.jp



前回の政策特集「もったいない運動」に対して市民37人から意見をいただきました。今後の運動の指針となる「もったいないの約束」(9月27日公表)の作成に当たり、参考にさせていただきました(27ページ参照)。代表的なものを紹介します。

(1) みんなでもったいない運動を広げるために大切なことは何だと思いますか？

- 食品や衣類など、ものの完成までの労力や時間の尊さを知るべきである。一つのものを作り上げる経験をする。 (築瀬 70代)
- 市民のみんなが郷土に誇りを持ち、宇都宮市をこうしていきたいと思うこと。 (石井町 60代)
- 地球上の限られた資源を有効活用するため、リサイクルなどみんなで小さなことからでもいいから取り組むこと。 (飯田町 50代)
- 小学生など、年少時代から「もったいない」を実践させる。 (五代 50代)
- 個々人それぞれが意識を高め、ものを粗末にしないこと。 (清原台 40代)
- もったいない運動の「仲間づくり」を推進して運動の輪を広げ、実践活動の展開をすること。 (西川田 70代)
- 月に一度「もったいない運動日」を作る。 (飯田町 50代)
- 世界平和。戦争をすれば、何もかも一瞬に全て失う。これ以上のもったいないはないと思う。 (鶴田町 60代)

(2) あなたは何を心掛けますか？何ができますか？

- 食べ物を捨ててしまうことは心が痛むので、ご飯粒一粒まできれいに食したり、スーパーなどで期限が切れそうな食品をなるべく買うようにし、すぐに調理して食するようにしている。 (石井町 60代)
- 我が家の雨どいの下を掘ってポリバケツを埋めて、庭木などに散水するなど、雨水の有効活用をしている。 (戸祭 70代)
- ものを買ったら、そのものを90~100%使い切る。洋服が小さくて着ることができなくなれば、ほかの人に着てもらい、自分も古着をもらって着ている。 (鶴田町 60代)
- 使わなくなった傘でエコバッグ、アームカバーなどの小物を作り、皆さんに差し上げて喜ばれている。「ありがとう」の言葉に、毎日ミシンを掛け続けている。 (西一の沢町 60代)
- 新聞の折込チラシをノートにしたり、切り絵に使ったりしている。 (下岡本町 80代)
- 栃木県のことを勉強し、人に教えてあげる。 (徳次郎町 60代)
- 外出は、徒歩、自転車、公共交通機関の利用に心掛けている。(一の沢町 80代)(元今泉 40代)

広報うつのみやの政策特集は、皆さんと一緒に考えていただきたいテーマを取り上げ、年4回編集します。

前回の政策特集「もったいない運動」の概要



ひとやものを大切にすること
「もったいない」

「もったいない」とは「そのものの価値が生かされず、惜しいさま」を表す日本特有の言葉。

近年、過度の利便性の追求や資本主義の発達、個人主義の尊重などが環境問題、心の問題を引き起こしている。恵まれた地球資源や思いやりのある人間関係

を次の世代へ引き継ぐため、地球上にあるすべてのものに尊敬と感謝の気持ちを持つことが必要である。さらに、身近な自然や文化、出会った人を大切にすることも大切であり、これが「もったいない運動」である。

宇都宮市の「もったいない運動」の取り組み

市では、「もったいない運動」として、家庭でのCO₂削減と個人消費の喚起を同時に達成する環境面からの緊急経済対策や、長岡最終処分場跡地への植樹、宇都宮を訪れた人に対するおもてなし運動、ものの本来の価値を生かし切るための廃食油の資源化、地産地消や食育の推進を行っている。そのほかにも、子どもたちに「もったいない」の心をはぐくむ絵本の作成・配布や、学校間で物品を貸借する「学校版もったいない運動」、家族でより環境にやさしい生活にチャレンジする「みやエコファミリー認定制度」、マイバッグ・マイ箸運動など、その取り組みは多岐にわたっている。



料金受取人払

郵便はがき



3208740

差出有効期間
平成22年7月
14日まで
【切手不要】

(受取人)

宇都宮市旭1丁目1番5号

(宇都宮市役所)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

行



3208740

3

氏名	住所
年齢 歳	職業

差し支えがなければ記入してください。広報紙で意見を紹介する際には、氏名の記載はしません。なお、はがきの情報については、目的以外には使用しません。